

主な海洋再生可能エネルギーの種類

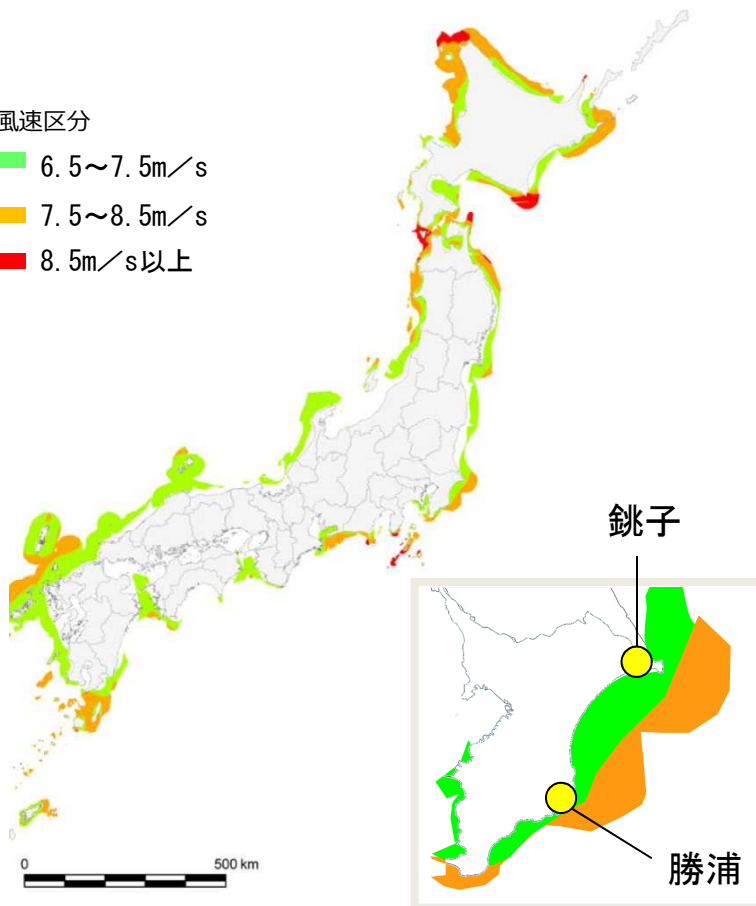
エネルギー種	説明
洋上風力	洋上における風力を利用
波力	波のエネルギーを利用
潮流	潮の干満により、周期的に流れの方向がほぼ180度変わる海水の流れを利用
潮汐	潮の干満による位置エネルギーを利用
海流	黒潮や親潮など、常に一定方向に流れる海水の大きな流れを利用
海洋温度差	表層海水と深層海水の温度差を利用

各エネルギー種のポテンシャルと状況

洋上風力

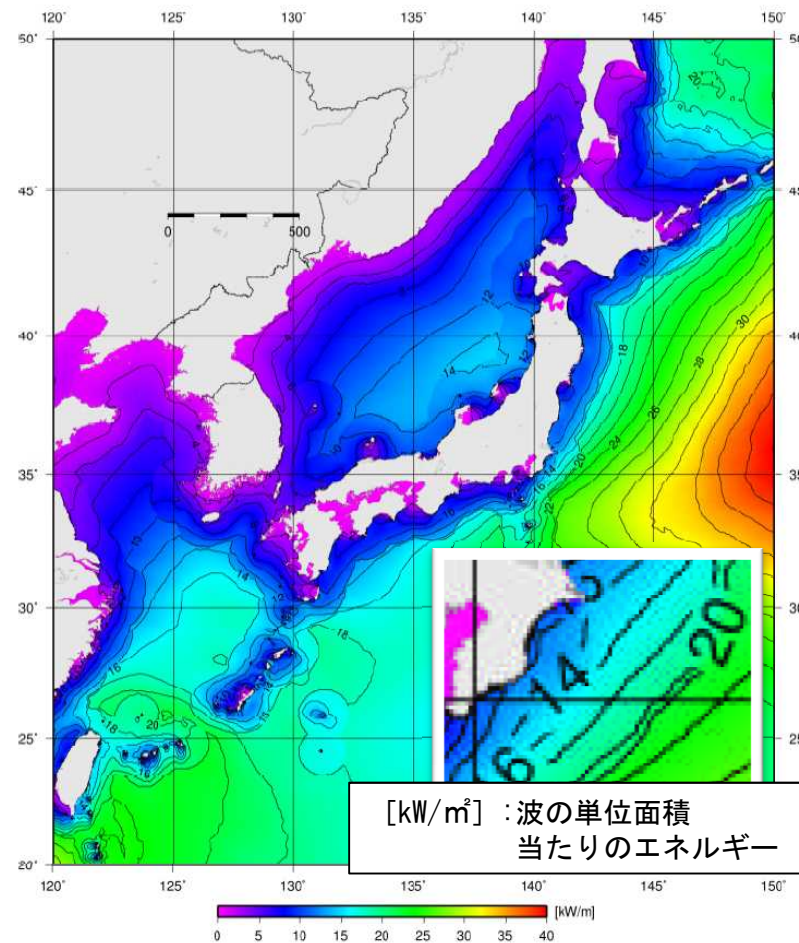
風速区分

- 6.5~7.5m/s
- 7.5~8.5m/s
- 8.5m/s以上



銚子沖・勝浦沖の近くに7.5m/s以上の風況良い地域が存在する

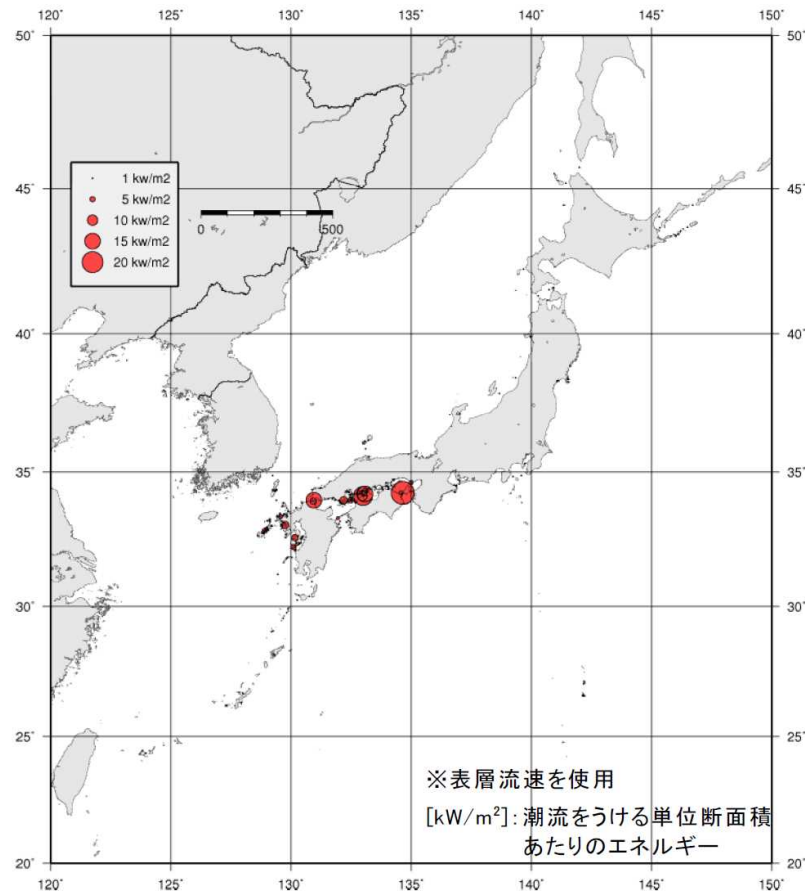
波力



太平洋側沿岸近くに15~25kW/m²の強い波が存在する

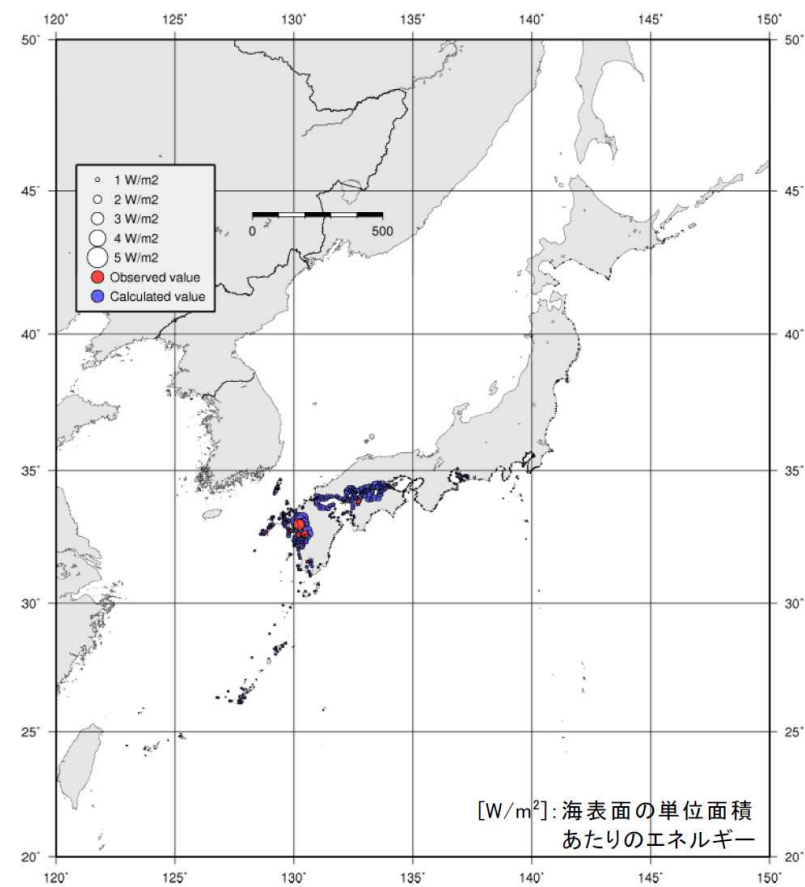
各エネルギー種のポテンシャルと状況

潮流



瀬戸内海等の入り組んだ場所において
ポテンシャルが高い

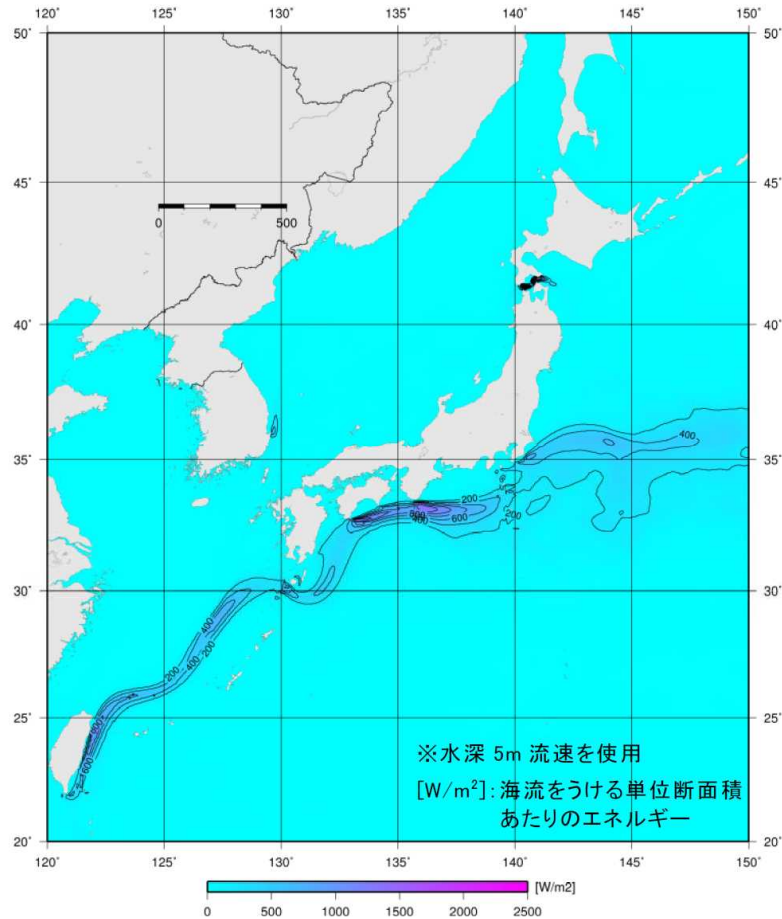
潮汐



発電の対象となる潮位（5m以上）が国内
には存在しない

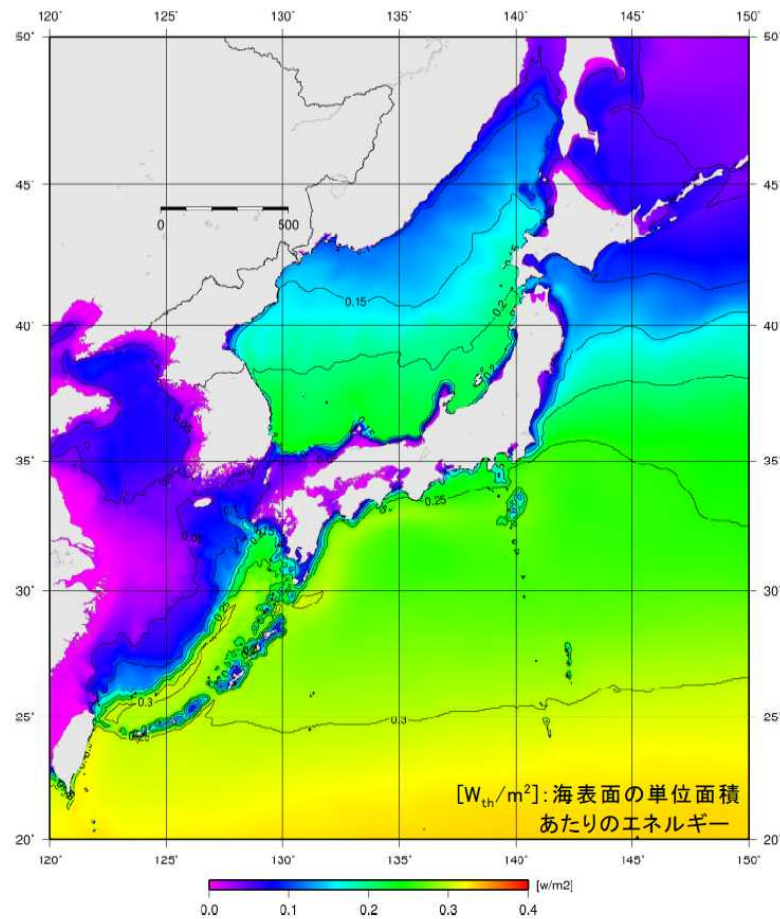
各エネルギー種のポテンシャルと状況

海流



房総半島沖に比較的強い海流の存在があるものの、黒潮と親潮のぶつかる場所であり、流向が安定しないことが想定されている

海洋温度差



九州南部、沖縄、東京離島部周辺でポテンシャルが高い

各エネルギー種まとめ

エネルギー種	本県におけるポテンシャル
洋上風力	大
波力	大
潮流	小
潮汐	小
海流	中
海洋温度差	小

本研究会における検討の対象としたい

※ただし、洋上風力及び波力以外のエネルギー種についても、技術開発の進展状況等により、検討対象とすることを妨げるものではない。